

1 2013年度の事業総括

事業	内容
成果	今年度は、品質の向上を主課題として掲げ、人と人とのつながりの中でエンパワメントされるような場づくりや援助関係の形成に努めてきました。日常のプログラムやイベント運営においては、利用者が主体となり、交流がより促進されるよう工夫し、かつ各種サークル活動の支援・組織化等を図ることで利用者同士の関係の深まりや広がり、主体化が確認されています。また、サマーフェスティバルへの参加や総センのマップ作りなどを以て、不十分ながらも地域住民や他部署交流等につながる萌芽が感じられる一年となりました。さらに、従前の福祉教育プログラム実践に加えて、ピアサポーターや利用者との協働で精神障がい者理解に資する福祉教育・ボランティア学習プログラム開発に着手・実践することができました。受講生への学習効果は元より、利用者のエンパワメントや今後の地域での展開を展望できる基盤作りができました。計画相談支援においては、新たに専任職員を配置して頂き、昨年度に続いて精力的に取り組んできた結果、予算を上回る成果を上げており、相談支援事業者として区内でも確たる位置を確立してきています。また、諸実践でみえてきた個別課題を地域課題に普遍化して新たな社会資源開発等につなげていくことにも努めてきました。なかでも精神障がい者とその子どもの支援については、独自に実践化を模索しながら、同時に関係機関との問題意識の共有を図ってきており、次年度以降の支援の仕組み作りの足掛かりを形成してきています。
課題	個別支援に関わるスタッフ間の情報共有不足などが原因で、その個別対応において利用者との信頼関係が損なわれてしまう状況が生じるがありました。すでに関係の改善は図られており、かつ再発防止策として、毎日の申し送り以外に、ケース共有・検討の時間を月1~2回程度設けて、サービスの質の向上を図っています。次年度も同様の問題が発生しかねず、しっかり教訓化していかなければなりません。また、職員の接遇態度についても自己・相互検証していくことが必要です。職員を増員して頂いたことで支出における人件費率が高くなっています。残業は、今年度、徐々に減ってはきていますが、支出の削減および職員の衛生管理等の観点から、業務の合理化を継続検討していくことが必要です。新たな社会資源開発については、本年度着手した親子支援を行政や他機関と協働して具現化していくことが課題となります。また、通所型生活訓練事業と連動し、訪問型生活訓練事業を展開することが必達です。さらに、グループホームや宿泊型生活訓練施設の設置、ソーシャルファームの事業化なども今後の事業課題として認識しています。今年度伸張させてきたセルフヘルプの取り組みや、福祉教育・ボランティア学習実践を含む住民交流や他部署交流につながる取り組みについては、今後も利用者との協働し実践を進めていきます。計画相談支援については、専任職員の増員を図りつつ、過重にならないような業務の進行管理と業務分担が重要になります。総じて、北地域包括支援センターと併せて、法人・地域における総合相談支援機関の機能強化を図っていくことが課題です。

2 2014年度の事業目標

主課題	内容
①新たな資源開発・運営と総合相談支援機能の確立強化 ②利用者同士のつながりづくりの実践強化と住民交流の具現 ③計画相談支援の計画的展開	
項目	内容
	①訪問型生活訓練の具現化や制度のはざまにある生活ニーズに対応するソーシャルワーク機能の確立(親子支援も含む)、ケースの共有化の徹底や接遇の改善。 ②サロン運営の断続的改善と住民交流の仕掛けづくり、部署間交流の促進、福祉教育の推進。 ③法人内利用者への計画相談支援の展開(法人内利用者における計画相談支援未提供者が約120名、次年度は約半数の60名を目標に計画相談支援のサービス提供化をめざす)。 ④上記を達成するためのチームマネジメント(労務管理、人材育成等)

3 月別事業計画

月	事業・行事等	会議	研修計画(内部・外部)
4	浅香山病院交流会(随時) 各種行事は、利用者との相談して随時実施	部署ミーティング及び ケース検討(毎月) 住吉区・住之江区自立支援協議会・専門部会(毎月)	
5	遠足、山登り	地活施設長会議(毎月)	
6		地域生活移行支援者会議(隔月)	
7	バーベキュー	ゾーン会議(毎月)	
8	サマーカーニバル		
9			
10	山登り		
11	遠足		
12	クリスマス会		
1			
2			
3	ふらっと楽しむすみよし、花見		